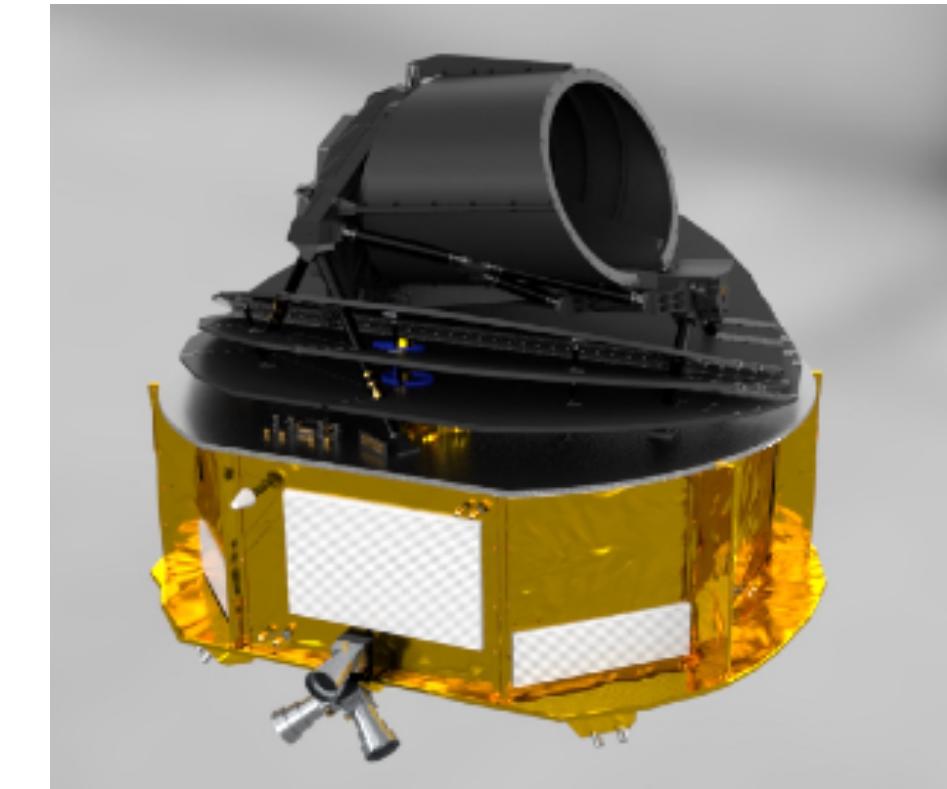




光赤天連シンポジウム：2030年代の戦略的中型をどうするか

2022年2月22日(火)

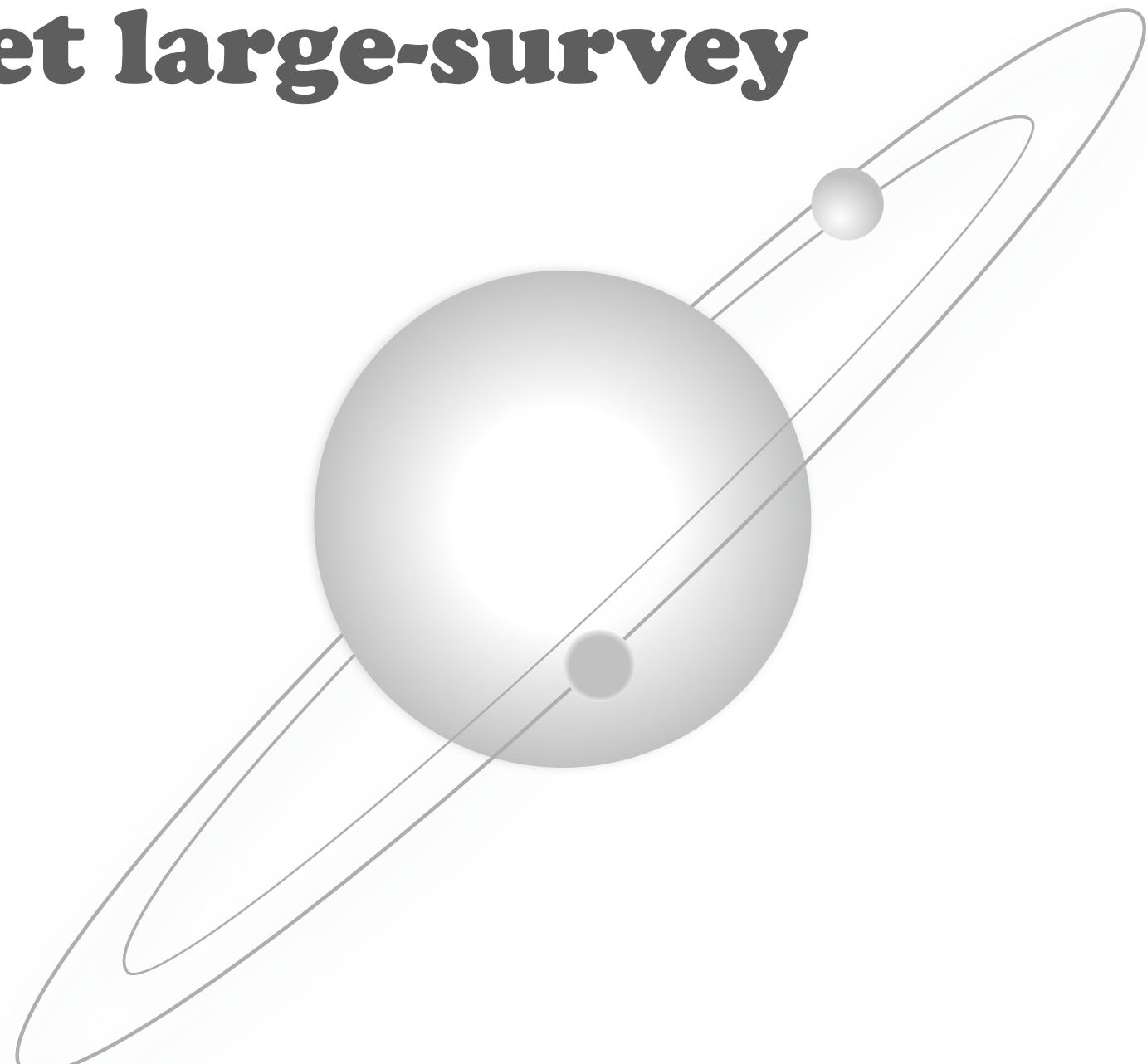


## トランジット系外惑星**大気**サーベイ観測

# Ariel

**Atmospheric remote-sensing infrared exoplanet large-survey**

生駒 大洋  
(国立天文台・科学研究部)



*Atmospheric Remote-sensing Infrared Exoplanet Large-survey*

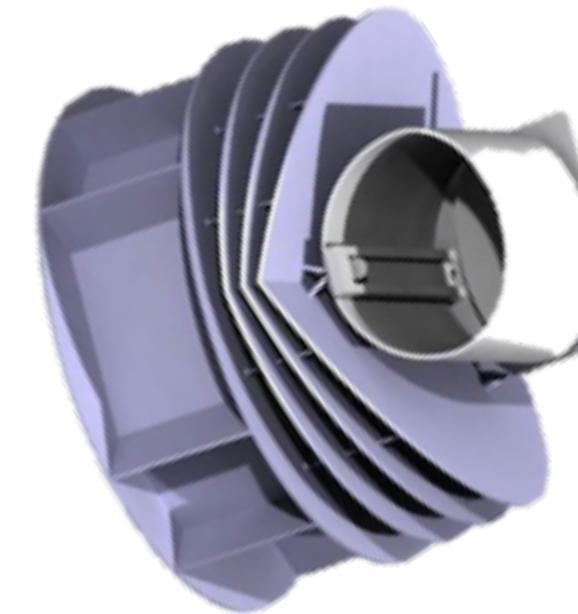
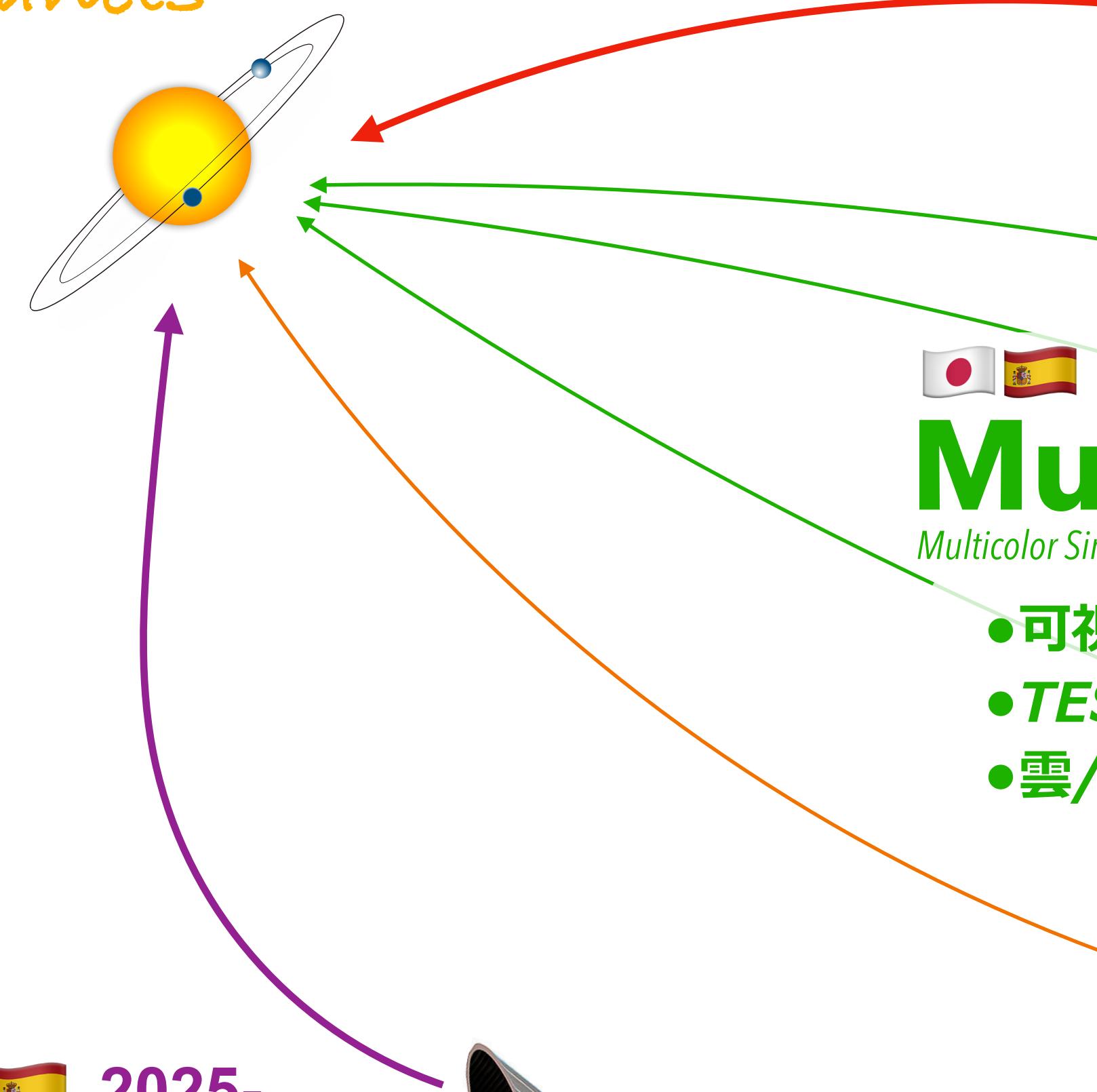
## Ariel



2029-

- ESA M4 ミッション
- 近～中間赤外域 トランジット分光観測
- 系外惑星大気の特性解明

Exoplanets



## 2020- MuSCATs

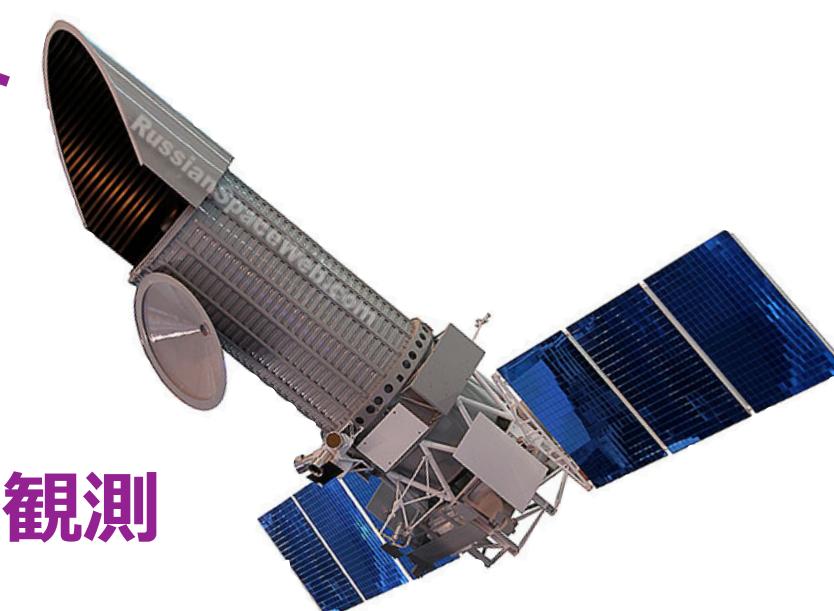
*Multicolor Simultaneous Cameras for Studying Atmospheres of Transiting exoplanets*

- 可視域多色トランジット観測
- TESS惑星候補から真の惑星の検出
- 雲/ヘイズを持つ大気の特性解明

2025-  
WSO-UV

*World Space Observatory - Ultra-Violet*

- 紫外域トランジット観測
- 地球類似惑星の検出



2019-

## IRD Intensive Program

*Infra-Red Doppler*

- 近赤外高分散分光観測
- TESS惑星の質量決定と大気と特徴づけ

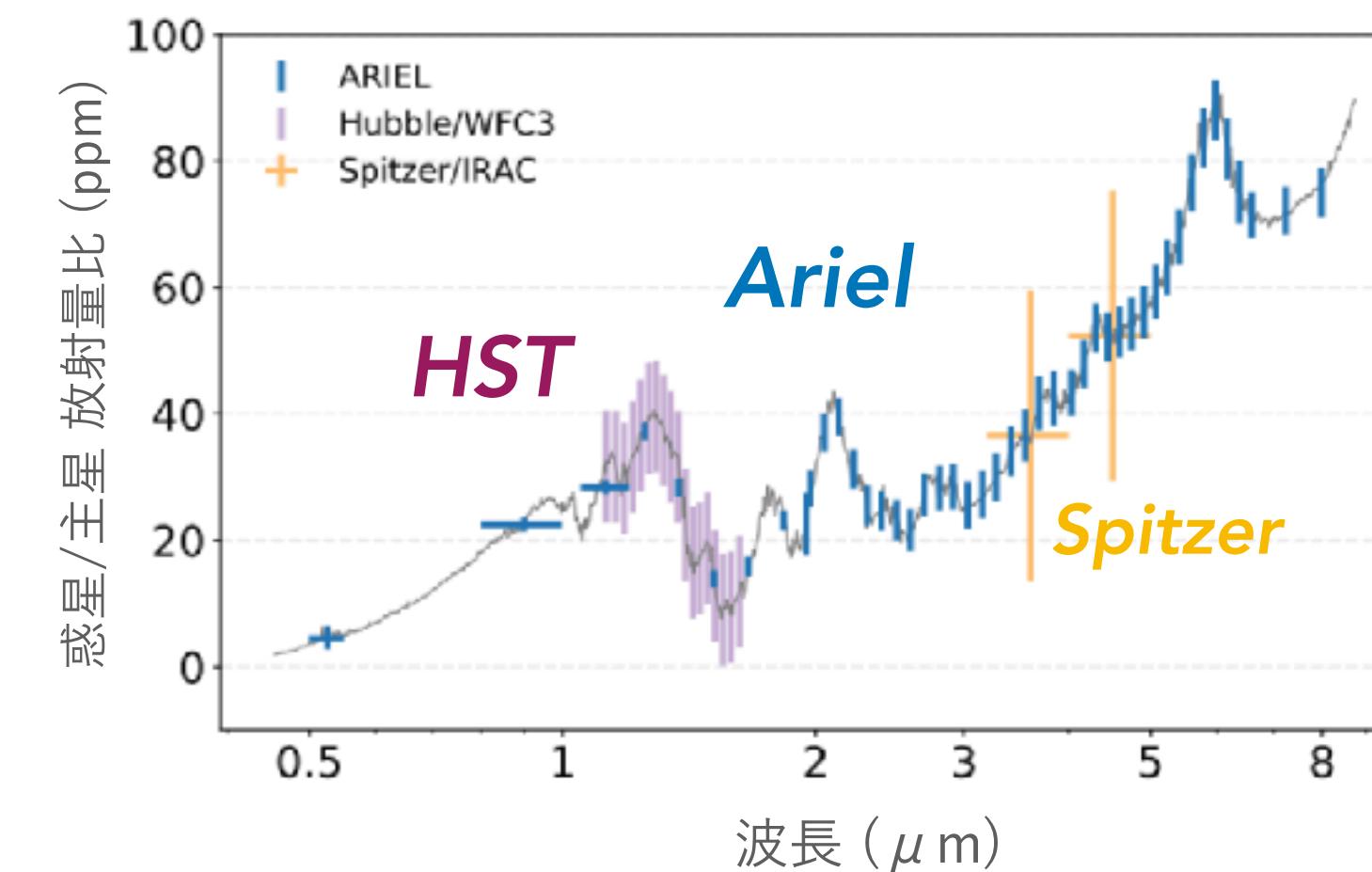




# Ariel

*Atmospheric remote-sensing infrared exoplanet large-survey*

- 系外惑星専用赤外分光トランジット観測衛星 → 約1000の系外惑星の大気サーベイ
- ESA M4 — 2020.11 採択、2029 打上げ予定
- 主鏡 1.1m x 0.7 m
- 波長範囲と解像度
  - 可視域バンド測光
  - 赤外域分光
- 科学目標
  - 系外惑星の成分の解明
  - 系外惑星の大気で生じる物理・化学過程の解明
  - 惑星および惑星系の形成・進化過程の解明



0.50 – 0.60  $\mu\text{m}$  (VISPhot)  
0.60 – 0.80  $\mu\text{m}$  (FGS1)  
0.80 – 1.10  $\mu\text{m}$  (FGS2)  
1.10 – 1.95  $\mu\text{m}$  with  $R \geq 15$  (NIRSpec)  
1.95 – 3.90  $\mu\text{m}$  with  $R \geq 100$  (AIRS-CH0)  
3.90 – 7.80  $\mu\text{m}$  with  $R \geq 30$  (AIRS-CH1)





# 参入への経緯および調整状況

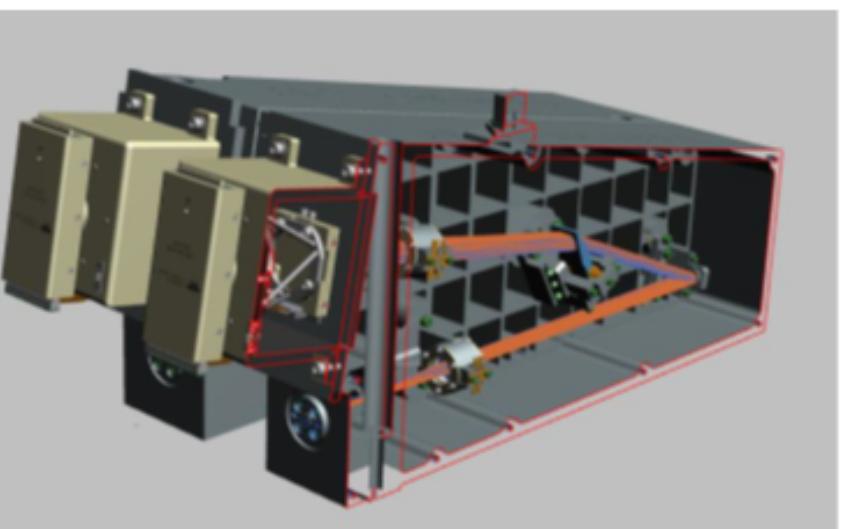
- 2012年～ 系外惑星の大気モデリングに大学院生と着手 + 欧米で宣伝活動
- 2017年秋 Ariel ミッションのサイエンス検討に個人的に協力
- 2018年11月 サイエンス・コーディネーターとして正式に個人参加
  - 卒業生数名が欧州の Ariel 関連グループでポスドクとして雇用され モデル開発に従事
  - 日本人の理論研究のレベルの高さが再評価された
- 2019年11月 日本の参入を提案される
  - Mission Consortium Co-PI Board メンバー → 欧州諸国と同等のデータアクセス権
  - ESA Science Advisory Team メンバー (ESA内6名+ESA外2名) → サイエンス選定、ターゲット選定など
- ▶ 参入条件 = 地上観測サポート + ハードウェア提供
  - (1) 地上観測サポート … トランジット時刻決定、ターゲット事前調査など
  - (2) ハードウェア提供 … 赤外分光器光学素子の開発・提供など
- 2021年2月 宇宙研理学委員会ワーキンググループ「系外惑星赤外分光」採択
  - Ariel-JP : 生駒大洋、塩谷圭吾、藤井友香、伊藤祐一、川島由依、成田憲保、福井暁彦、亀田真吾、村上豪
- 2022年3月 Ariel コンソーシアムにて Co-PI として承認（予定）





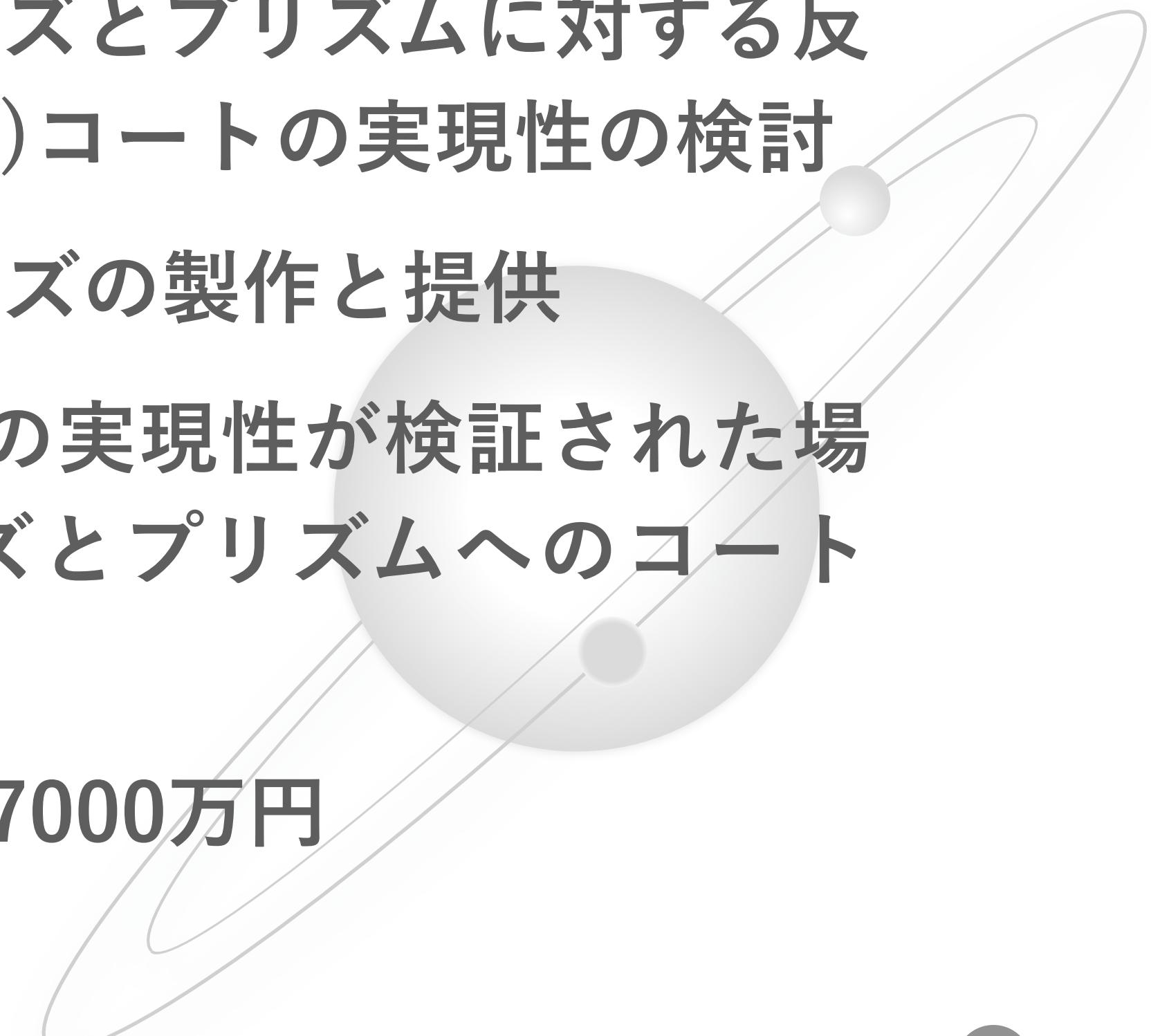
# 赤外分光器の光学素子の開発・提供

AIRS 構造



主担当：塩谷 圭吾

- フランス赤外分光器開発チーム(AIRSチーム)と共同
- CaF<sub>2</sub> レンズとプリズムに対する反射防止(AR)コートの実現性の検討
- CaF<sub>2</sub> レンズの製作と提供
- ARコートの実現性が検証された場合、レンズとプリズムへのコートの適用
- 総経費 ≈ 7000万円



# 地上観測サポート体制の確立

## MuSCATs

主担当：成田 憲保、福井 晓彦

可視光多波長トランジット観測を24時間体制で

→TESS・Arielターゲットの集中的観測

- ・偽検出の排除
- ・TTVによる質量決定
- ・トランジット時刻の高精度決定
- ・大気の雲/ヘイズの調査

1号機（岡山） 科研費基盤A（代表：成田）

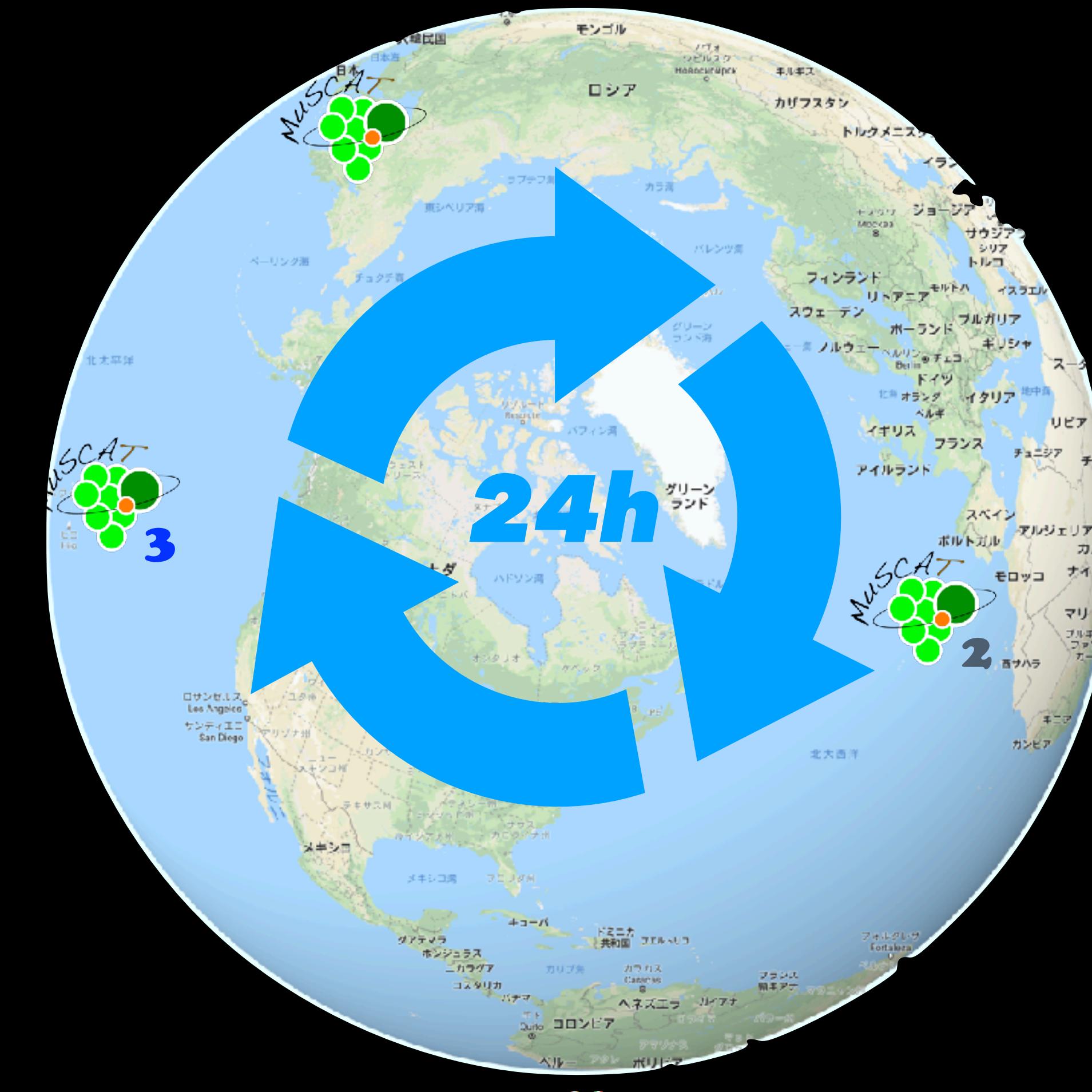
2号機（テネリフェ島）

ABC装置開発費（代表：成田）

3号機（マウイ島）

新学術領域計画研究（代表：生駒）

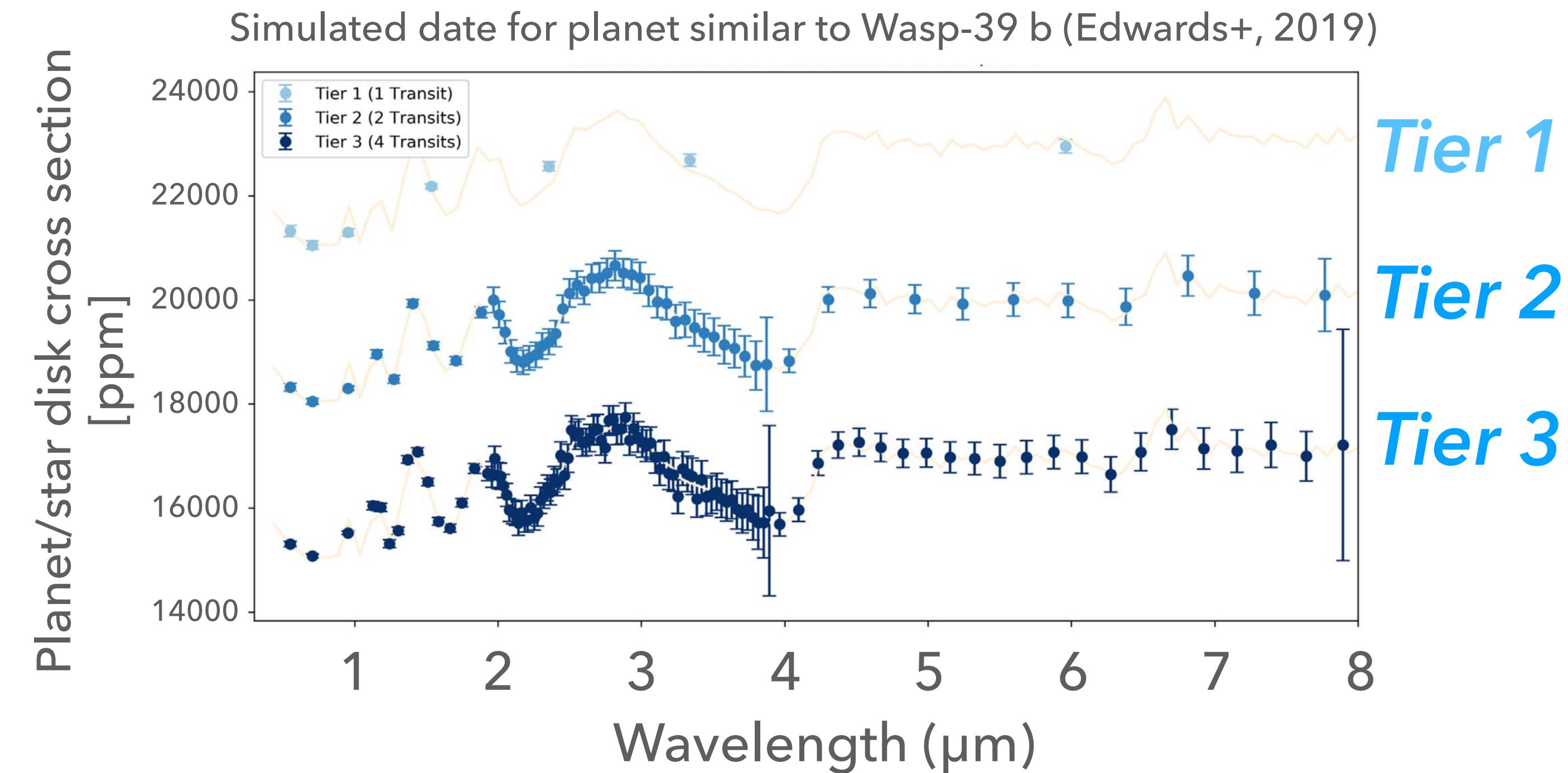
ABC装置開発費（代表：成田）





# データ公開ポリシー（予定）

Tier name	Observational strategy
<b>Tier 1</b> Reconnaissance Survey	Low spectral resolution observations of ~1000 planets in the VIS & IR, with SNR $\sim 7$
<b>Tier 2</b> Deep Survey	Higher spectral resolution observations of a sub-sample in the VIS-IR
<b>Tier 3</b> Benchmark planets	High SNR observations in 1-2 events, re-observed over time
<b>Tier 4</b> Phase-curves & bespoke observations	Phase-curves and bespoke observations



**Tier 1**  
**Tier 2**  
**Tier 3**





# まとめ

## *Atmospheric remote-sensing infrared exoplanet large-survey (Ariel)*

- 惑星系の多様性とその成因の解明に向けた次のマイルストーンは**多様な系外惑星の大気の特徴および成因を理解すること**である。
- そのために、系外惑星赤外分光観測計画 **Ariel**への参入を予定している。
- Arielへの日本の貢献：(1)科学成果の創出、(2)地上観測サポート、(3)光学素子開発・提供
- ISAS宇宙理学委員会ワーキンググループを設置し、戦略的開発研究費をいただいて、光学素子のコーティングの実現性を検討している。
- 豊富な赤外分光観測データが手に入ることで、日本の特に**系外惑星科学コミュニティの活性化**が期待される。
- 検出を目的としたRomanやJASMINE、紫外線観測を目的としたWSO-UVに、赤外線観測を目的としたArielを加えることで、**国内で系外惑星に関する多様なサイエンスが可能**になり、**日本の系外惑星科学を現代化**することができる。

